

悔い改めと信仰への招き

2022年10月16日

使徒の働き 13章13～43節

序：パウロの第一次伝道旅行出発

シリアのカンティオキア教会から派遣

バルナバとサウロ（パウロ）、助手はヨハネ・マルコ

最初の行き先はバルナバの郷里キプロス島（東岸サラミス～西岸パポス）

ユダヤ人の諸会堂で神のことばを宣教

ユダヤ人の魔術師バルイエス（エリマ）の妨害、目が見えなくなるさばき

ローマ人の地方総督セルギウス・パウルの求道と入信

I. 小アジアに向かう

(1)ペルゲ（パンフリアの首府）に着く

アルテミス神殿

(2)ヨハネ・マルコ離脱、エルサレムに帰る

理由？

①キプロスだけと思っていた、小アジアに行く予定変更は心外

②リーダーが自分のいところバルナバから、パウロに移行することに不快感

③小アジアでの宣教の困難に対する覚悟がなかった

結果 15・37～40

①バルナバはマルコを再び同行させるつもり

②パウロはマルコを非難、同行させない

③バルナバとパウロは別行動（各々マルコ、シラスを同労者に選ぶ）

さらに後年

①パウロの同労者 ビレモン 24

②ペテロの同労者 ペテロ I 5・13

II. ピシディアのアンティオキア

(1)安息日にユダヤ人の会堂に入った

(2)会堂管理者から、奨励のことばを依頼される

(3)パウロが立ち上がり、ギリシャの雄弁家のスタイルで語る cf. イエス（座す）

(4)会衆：イスラエル人（ユダヤ教徒）

神を畏れる方々（異邦人で真の神に関心ある人、あるいは改宗者）

III. パウロの宣教

(1)イスラエルの歴史を振り返る

①神がイスラエルを選び、異郷の国エジプトで強大にされた

②神による出エジプト

③40年の荒野の生活（イスラエルの背信、神の忍耐）

④カナンの地を相続地として与えた

⑤さばきつかさ（士師）を立てた

⑥預言者サムエル、王サウルを立てた

⑦サウルを退け、みこころにかなうダビデを主のしもべ、王とした

(2) 救い主（メシア）の到来

- ① 人としてはダビデの子孫
- ② メシアの出現の先駆けはバプテスマのヨハネ
悔い改めのバプテスマにより、民にメシアを迎える準備をさせた
- ③ エルサレムの住人、ユダヤ教の指導者たちは預言を理解せず、無罪のイエスを罪に定め、ピラトに十字架刑を要求
- ④ イエスの十字架上の死、葬り、死者の中からの復活（救い主の証明）
- ⑤ 復活後に弟子たちに現れた 復活したイエスの目撃者はイエスの証人となる

(3) 福音を宣べ伝える

- ① 先祖に約束され、子孫である私たちにその約束を成就
 - ★ 神はダビデの子孫イエスを神の御子として示された 詩 2・7
 - ★ 復活によって、イエスは滅びることのない方と証明 詩 16・10
ダビデは神のしもべ、しかし、人間なので死に体は朽ちた
神がよみがえらせたイエスは、朽ちないし滅びない
- ② 救いのことばはそこにいるすべての人に送られた
- ③ 罪の悔い改めを迫る（イエスによる罪の赦し）
- ④ イエスを信じるよう招く（律法の行いによっては不可、ただ信仰による義化）
- ⑤ 神の救いを無視する者へのさばきを警告

IV. 聴衆の反応

- (1) 次の安息日にも続けて聴きたい（もっとイエスを知りたいという意欲）
ユダヤ人から反発ではなく、関心を持たれた cf. ステパノ
- (2) パウロとバルナバについて来た人たちと語り合った
二人の助言：神の恵みにとどまるように

V. 結び

- (1) 途中で信仰者として挫折、落伍することがあっても、早々に諦めたり、切り捨てたりしないように 回復を祈り願い、希望と忍耐をもって待ち望む信仰
- (2) 聴衆がだれであるかを知って、宣べ伝える
ユダヤ人には、歴史を回顧し、旧約聖書にもとづいて
- (3) 神の義（さばき）と神の恵み（救い）の両面を伝える
- (4) 福音を証しするだけでなく、悔い改めと信仰を勧め促す
イエス・キリストは救い主
自分の罪を認め、悔い改める ⇒ 罪の赦し
イエス・キリストを信じ、受け入れ、告白する ⇒ 永遠のいのち
不朽不滅、栄光の体